

国立研究開発法人
日本医療研究開発機構（AMED）委託事業

平成 28 年度

ゲノム病理標準化センター

第 9 回 病理標準化センター講習会 報告書

於 大阪大学医学部 最先端医療イノベーションセンター

平成 29 (2017) 年 3 月

第9回 ゲノム病理標準化センター講習会報告書

「ゲノム研究等に資する質の高い病理組織検体の取扱いに関する高度専門知識を有する人材の育成」を目的とした「平成28年度 第9回ゲノム病理標準化センター講習会」を2017年3月4日（土）、大阪大学医学部 最先端医療イノベーションセンターにて開催した。

今回の講習会は、本事業の加速化を目的に平成28年度AMED間接経費による支援のもと実現した講習会であり、関西では初の開催となった。

会場は個々人の机にパソコンが設置されており、講習のスライドが手元で見ることができるなど、講習会場としては卓越した環境であった。

開催決定から講習会開催日まで案内・募集期間が短い中で、また日程が取れず、関西地区の臨床検査技師会の支部総会と日程が重なってしまったなどがある中でも、参加者は72名あり関心の高さがうかがえた。

参加者の内訳は病理医が30名、臨床検査技師が22名、臨床医が9名、その他が7名（研究職医師、口腔病理医（歯科医師）、研修医、大学院生、バンキング施設臨床検査技師および技術専門職員、製薬会社（外資系メーカー）が各1名）であった。

はじめに大阪大学医学部 病理学分野 教授 森井英一氏より関西で初の開催に関しての挨拶があった。続いて主催者である東京大学医学部附属病院 病院長 斎藤延人氏および日本病理学会 理事長 深山正久氏の代理として、東京大学医学部附属病院 病理部・病理診断科 副部長 佐々木毅が本講習会のこれまでの経緯や目的、AMEDのMedical Arts, ゲノム医療実現プロジェクトおよびそのために必要なData sharing等に関して説明し、挨拶とした。

講義では、「ゲノム医療実現に向けたオーダーメイド医療の実現化プログラムの取り組みと病理組織バンキングの構築」として、東京大学新領域創成科学研究科メディカル情報生命専攻 教授 松田浩一氏にご講演いただいた。

さらに「ヒト病理検体からのゲノム診断と研究」というテーマで、「ゲノム研究用病理組織取扱い規程」作成の実証実験施設の1つである九州がんセンター 統括診療部病理診断科 医長 田口健一氏より、「病理診断を妨げない検体採取法等」を主とした講演が行われた。

次いで日本病理学会のAMED委託事業である実証研究に関して、「ゲノム研究用病理組織検体取扱い規程の解説」と題して、日本病理学会ゲノム病理組織取扱い規約委員会 委員長 慶應義塾大学 病理学教室 教授 金井弥栄氏よりご講演いただいた。

いずれの講演もアンケートの評価は高いものであったが、要望としては九州開催（2016年6月18日に1度開催しているが）など「地方開催」の要望があり、また関西開催に関しても、来年度以降もぜひ継続して実施してほしい（できれば複数回）という要望が会場内で多く聞かれ、今後の課題と考えられた。また、アンケート結果の集計は各講師の先生方にもフィードバックしているが、その意見等をもとに毎回、パワーポイントのスライドを更新してご講演くださっているため、テキストを「固定」することが難しく、今後も都度のハンドアウトの印刷は必要であると考えられた。

なお会場での質疑応答で、「改正個人情報保護法」や「病院内でのIRB」に関する質問が多くあり、ゲノム情報と個人情報保護法に関する専門家の講演が必要と考えられた。

講習会の終了にあたり、聴講生には修了証書が配布された。また聴講生1人1人には「ゲノム病理標準化センター講習会ホームページ」で講習内容が復習可能なコンテンツの閲覧とe-ラーニングが受講できるように専用のID、パスワードを配布し受講を促した。

アンケート結果の詳細に関しては、添付資料を参照されたい。

（文責 東京大学医学部附属病院 病理部 佐々木毅）